東海テレビこの1年の取り組み
2022

東海テレビ放送株式会社

ごあいさつ

東海テレビ放送株式会社
代表取締役社長
小島浩資

新型コロナの感染状況が比較的落ち着いていた２０２１年１２月、私は２年ぶりに岩手県に足を運ぶ機会を得ました。２０１１年８月４日の「ぴーかんテレビ不適切テロップ問題」から丁度１０年。節目の年に社を代表してお伺いするというのは大きな緊張を伴うものでしたが、訪問先の皆さまはとても温かく迎え入れて下さいました。現地での寛容さに感謝申し上げると同時に、二度と同じあやまちを繰り返すことのないよう決意を新たにした次第です。

さて私たち東海テレビはこの１年も「地域最良のテレビ局」を目指し、様々な活動に取り組んでまいりました。

その中で、うれしい出来事がいくつかありました。昨年放送したドキュメンタリー番組「チョコレートな人々」が、２０２１年日本民間放送連盟賞のテレビグランプリを頂いたのがその一つです。ディレクターが２００３年からひたむきに取材を続け、番組に登場する方々との間で信頼関係を築き上げた努力の賜物です。また今年２月には、岩手県の魅力を紹介する番組を制作・放送する機会に恵まれました。あの日から１０年、番組制作という形で岩手の復興支援に携わることができたのは、グループ一丸となって再発防止に取り組んできたことが報われたものと、素直にうれしく思います。

２０２２年度に入り、４月には月曜日から金曜日夕方放送の報道番組「ＮＥＷＳ　ＯＮＥ」をリニューアル、また、２００３年に始まったバラエティー番組「ぐっさん家」は、お陰を持ちまして放送２０年目を迎えました。皆さまのニーズに応えられるよう、引き続き有益な情報や娯楽をお届けしていきます。

番組の視聴方法の多様化に合わせ、配信事業にも一段と積極的に取り組んでいます。この４月からは、毎週土曜夜に放送している「土ドラ」のリアルタイム配信をスタートさせました。このほか、在名テレビ局４社で共同運営する Locipo でも、見逃し配信や配信オリジナルのコンテンツを提供しています。より多く支持される映像プラットフォームに育てていければと思っています。そして今年 7 月には機構改革に伴いＣＳＲ推進部を新設しました。東海テレビは昨年、国連のＳＤＧメディア・コンパクトに加盟しましたが、今後も持続可能な社会づくりのため、放送の枠を超えた地域貢献をさらに推し進めてまいります。

地上波テレビをめぐる環境は厳しさを増しています。こうした中、昨年末に内田優会長の急逝というとても悲しい出来事がありました。生前、内田が座右の銘としていたのは「不易流行」でした。あとを任された私たちもこの言葉を肝に銘じ、高い倫理観と共にこの地域の文化を育む放送局として活動を続けていきます。

引き続き応援のほど、宜しくお願い致します。

《基本理念》

1．放送の持つ公共性、公益性を強く自覚し、社会的使命感と高い倫理観を持って職務を遂行する。

1．ジャーナリズムを堅持することで表現の自由を守り、正確・公正で迅速な報道を通じて視聴者の知る権利にこたえる。

1．災害時のライフラインとしての使命を果たし、地域の“命と生活を守る”情報発信に全力を挙げる。

1．「ふるさとのテレビ」として地域密着を最優先し、良質な番組制作やイベント・催事を通じて、市民生活に役立つ情報と健全な娯楽を提供する。

1．放送局としての自主・自立を守るため経営の安定化を図る。

1．ＳＤＧｓ(持続可能な開発目標)宣言をふまえ、これを企業活動の指針のひとつとする。

【ビジョン】

地域に貢献し　最も信頼されるテレビ局

目次

ごあいさつ　p1

基本理念・ビジョン・目次　p2

1．時代に合わせた放送倫理を身につける　p3

第三者意見Ⅰ　p6

2．「デルタ株からオミクロン株へ」
コロナとの闘い　p7

3．テレビの使命を考える
放送や配信を通じた地域貢献　p9

4．岩手県をはじめとした被災地支援　p14

5．「持続可能な開発目標」
ＳＤＧｓに関する取り組み　p16

6．視聴者との向き合いを大切に　p19

第三者意見Ⅱ　p21

この１年の取り組み　p22

おわりに　p23

1　時代に合わせた放送倫理を身につける

ぴーかん問題以来、東海テレビでは放送倫理を考える取り組みを全社的に行っています。この１年は新型コロナウイルス感染対策に配慮しながら、放送倫理にもとることが起きていないかチェックするとともに、昨今話題になっているテーマで研修会を開くなど、意識向上に努めました。

２０２１年度第１回放送人研修会
放送における差別表現と番組制作

番組審議室　堀田　優

２０２１年１２月６日、毎年実施している「放送人研修会」を開催しました。講師は、ＢＰＯ放送倫理検証委員会の高田昌幸委員長代行、米倉律委員、井桁大介委員のお三方にお願いしました。テーマは「放送における差別表現と番組制作」です。本社、東京支社、大阪支社の計１０カ所の会場と講師・ＢＰＯの皆様をオンラインで結び、関係会社や協力会社も含めた１７５人がリアルタイムで参加。その後、イントラネットによる配信も実施しました。

高田委員長代行からは、「テレビは差別を再生産するツールになるが、差別をなくすためのツールにもなる。知識が不足していると放送の過程で大きな失敗をしてしまう。基礎知識が何よりも重要であるということを肝に銘じてほしい」とのお話がありました。

米倉委員には、放送人としての感度について、仮に差別の知識がなかったとしても、一度立ち止まって考えることの大切さを指摘していただきました。さらに、「差別問題は特効薬もマニュアルもない。取材活動を通した日々の実践の中からしか放送倫理は形成されない」と取材を積み重ねることの必要性を教えていただきました。

井桁委員には、「差別意識は誰にでもあるということを前提に行動してほしい。個人レベルでは、自分が何に差別的な意識を持ちがちなのかを自覚することで、行動パターンが変えられる」と具体的な提案をしていただきました。

今回の研修会が差別問題を再認識するきっかけになり、本で学ぼうという動きが社内に広がりつつあります。これからも放送倫理意識の向上に向けた取り組みを続けていきたいと思います。

２０２１年度第２回放送人研修会
SNS の怖さを理解するために

コンプライアンス推進部　石原　慎太郎

１２月に引き続き、３月２５日には２回目の「放送人研修会」を開催しました。昨年７月にコンプライアンス推進部に異動して以来、ＳＮＳによる誹謗中傷や、炎上など、様々なトラブルを見聞きしていたことから、ＳＮＳにまつわる研修会の必要性を実感していました。

そこで今回、講師をお願いしたのは、フジテレビコンテンツ・コンプライアンス室長で、昨年３月に設置されたＳＮＳ対策部の部長でもある坪田譲治さんでした。坪田さんは、ＳＮＳやネット炎上の危機管理の鉄則は、問題があった事例を社内で共有することであるとして、具体的な起きた事例を挙げて、要点をわかりやすく説明していただきました。その後、参加者に行ったアンケートでは、「実務に役立つ話が聞けてよかった」「日常に潜むリスクもよく理解できた」など全体の約９割の方から「大変有意義だった」「有意義だった」との感想がありました。

番組やイベントに関する情報を提供したり、番組に対する感想や世間のトレンドをリアルに知ることができるＳＮＳは、多くの人たちとマルチにつながるメディアとして、今や切っても切れない存在になりました。上手に使えば情報発信・収集の武器になりますが、使い方を誤ると人を傷つける凶器になります。今回の研修会をきっかけに、様々な情報を扱う放送局として、より上手なＳＮＳとの付き合い方を考えていきたいと思っています。

次世代に受け継ぐために

１０年目の全社アンケートの実施

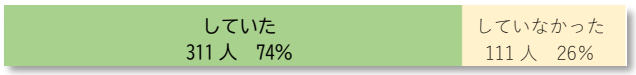
コンプライアンス推進部 石原 慎太郎

「ぴーかん問題」から１０年の節目を迎えた２０２１年８月４日、例年実施していた「放送倫理を考える全社集会」は新型コロナウィルスの影響で、２０２０年に続き見送ることになりました。このため、この年は全社アンケートを実施し、放送倫理に対する意識などについて改めて確認しました。東海テレビの役員と従業員、グループ会社関係者、協力会社スタッフ、計４２２人から回答がありました。

アンケート調査から分かったのは、問題当時、東海テレビに在籍していなかった人が２６％と、４人に１人が当時のことを知らない世代になりました。今後さらに未経験者が増えていきますが、当時の出来事は次の世代に受け継ぎながら、放送倫理意識を磨き続けてまいります。以下、２０２１年夏に実施したアンケート調査の一部を掲載します。

全社アンケート集計結果より（抜粋）

Q. 当時在籍していたか？



Q. 当時をふり返って

- 在籍する会社が、このようなひどい放送を流したことが何より辛かった。
- 単なるミスではなく、常識では考えられない、企業としてのモラルが問われる内容の問題であったと感じた。
- スポンサー、代理店からかなり厳しい言葉を投げかけられた。３か月ぐらい謝罪の日々だった。

Q. 再発防止のため意識していることは？

- 所属の会社に関係なく、仕事で関わるスタッフとのコミュニケーションを密に取るように心がけている。
- 「ヒヤリ・ハット」集などを参考にしてどういう状況の時に「抜け」が起こるのかを学び、そういう状況の時には特に気を付けています。
- 「おかしい」「変だな」と思うことがあれば、どんな些細なことでも上司に意見し、相談すること。迷ったときは周りに相談して意見を聞き、視野を広く持つこと。これらをすることで、自分に責任を持って仕事をするように心掛けています。

Q. ネットやＳＮＳ・配信等の普及で当時と放送環境が変わった今、守らなければいけないと思っている「放送倫理」や「モラル」とは？

- とにかく人を傷つけていないか考えてから行動する。発信する前に立ち止まる。
- 「放送倫理」や「モラル」というのは個人としての意識も勿論高めなければならないし、放送に当たっては組織として、個人で抜け落ちる部分を補うべきものだと思っています。
- ＳＮＳ等の広がりにより、これまでより情報が世の中に拡散される勢いが増すと考えられる。そのため、改めて人名をはじめ、虚偽の情報がないように細心の注意をはらうこと。

Q. 「地域に貢献し、最も信頼されるテレビ局」を実現するために必要なことは？

- あまりにも様々な情報が飛びかっている中で常に正しい情報を的確に視聴者に届けること。視聴者側に立ち責任と誠意をもって番組を作っていくこと。
- メディアとして、情報に責任を持つ。生活に密着した情報（災害等）を迅速に伝える。地域の人々が何を求めているか、アンテナを広げ情報収集を行う。
- 「最も信頼されるテレビ局」というのがおこがましい。「少しでも信頼回復するテレビ局」 というものを何年、何十年と積み重ねる事しか道はないと思う。

コンプライアンス責任者会議

東海テレビではライン部長がコンプライアンス責任者として、部員の監督・指導を行っています。「コンプライアンス責任者会議」は、各部長のほか、グループ会社の担当者も加え毎年４回、３カ月ごとに開催し、法令順守や放送倫理、情報セキュリティなどに関わる事項について、話し合いの場を設けています。以前は部長全員が一堂に会し情報交換をしていましたが、この１年は、本社は３会場に分散、東京・大阪・各エリア支社をリモートで結んで行いました。各部で発生したトラブルやヒヤリ・ハット事例のほか、「新型コロナ対策」、「ハラスメント防止策」、さらにはＢＰＯ事案などについて時間を割いて議論を深めました。番組制作に関わっているか否かにかかわらず、放送に携わる「放送人」として意識をしながら業務に当たれるよう、この会議を運用しています。

２０２２年５月２７日開催の
コンプライアンス責任者会議

コンプライアンス委員会

また東海テレビでは、コンプライアンス責任者会議のほかに、役員・局長・グループ会社役員などをメンバーとした「コンプライアンス委員会」を原則半年に１回開催しています。責任者会議の内容を把握することで、グループ全体で問題意識を共有しています。委員会には顧問弁護士も参加しており、この１年では「個人情報保護法」や「公益通報者保護法」の改正ポイントについてレクチャーを受けました。

経営層から上級管理職が率先して学び、職制を通じ注意喚起することで、コンプライアンスを意識できる会社を目指しています。

２０２２年３月２２日開催の
コンプライアンス委員会

第三者機関 オンブズ東海

ぴーかん問題を契機に、２０１２年に発足した第三者機関「オンブズ東海」の活動は今年１１年目を迎えました。オンブズ東海は、毎年４回、３カ月毎に開催し、現在、マスコミ・法律・消費者経済の専門家３人に委員を委嘱、東海テレビの番組やイベントの制作過程などについて、それぞれ専門の立場からチェックし、意見をいただいています。委員からの意見は適宜社内にフィードバックし、「転ばぬ先の杖」としています。委員会の概要は、東海テレビのホームページに公表していますので、是非ご覧ください。

２０２１年１２月１３日開催の
オンブズ東海委員会

オンブズ東海委員会 HP

＜オンブズ東海委員のみなさん＞

２０２２年７月１日現在

橋本 修三	弁護士
東　珠 実	椙山女学園大学 現代マネジメント学部教授
臼田 信行	㈱中日新聞社常務取締役

その他の主な取り組み

≪２０２１年≫
９月１１日　個人情報保護・情報セキュリティに関する内部監査（～１２月２１日）
１２月　６日　業務リスク調査（～２月３日）

≪２０２２年≫
４月　１日　グループ会社新入社員研修
４月　４日　東海テレビ新入社員研修
５月２０日　「スイッチ！」スタッフ研修

第三者意見Ⅰ

「語り継ぐことの大切さ」

オンブズ東海委員　橋本 修三
弁護士

昨年、あるキー局で民族差別発言が問題となった放送があった。放送直後、政府の内閣官房から抗議を受け、ＢＰＯでも取り上げられて甘い最終チェック体制や差別問題に関する基本的知識の欠如を厳しく指摘された。

この放送は、事前収録されたＶＴＲで、制作過程では何度もプレビューを重ねられていたものの通過してしまったとのことである。再発防止は当然のことであるが、このような放送がなされたことそれ自体深刻な事態であり、放送に至った原因究明は不可欠である。

直接の原因究明よりも気になったのが、このキー局では１９９４年にも同じ民族に対する差別に関する知識に欠けた放送を行って大問題となっていたことだ。にもかかわらず、昨年再び同じような放送をしてしまったことに驚いた。最初の問題番組を放映した当時、団体等から強い抗議を受け、キー局ではその問題に関する勉強会が何度も開かれていたそうだ。しかし、いつしか勉強会も行われなくなり、現在ではそれが全く継承されていなかったという。そして、昨年の問題放送の制作スタッフは誰１人として１９９４年当時のことを知らなかったというのである。

最初の問題放送の直後は、大きく受けた痛手を２度と繰り返さないよう強く願い、研修や再発防止策に取り組んでいたはずであろう。しかし、それが継承されずいつしか忘れ去られてしまった。これが現実なのである。ひとごとではない。私たちもこのことを深く心に刻みこむことが大事だと思う。

東海テレビでもぴーかんテレビ不適切テロップ事件から１０年を経て、当時のことを知らない社員がかなりの割合を占めつつあると聞いている。２度と繰り返さないために、東海テレビの皆さんが体験したことの重大さ、失われることの大きさを思い返し、これからも継承し続けることの重要性を改めて強く認識していただきたいと思う。

東海テレビでは、毎年７月、放送倫理を考える月間として全社アンケートを実施するとともに、放送倫理をテーマとして話し合った結果を各部での取り組みとしてまとめている。また、リスク情報の共有と危機管理意識の向上のため３ヶ月ごとにコンプライアンス責任者会議を開催して充分に議論を尽くしたうえ、各社員へ情報共有をしているとのことであり、弛むことなく真摯に取り組む姿勢には敬意を表したい。

コロナウイルス感染症対策のため一昨年から中断していた「放送倫理を考える全社集会」を８月４日に開催することが復活した。あの当時在籍していた皆さんも、その後に入社された皆さんも毎年この日に一堂に会して放送倫理を考える機会を持ち、語り継いでいくことは極めて重要である。

橋本 修三（はしもと しゅうぞう）氏

名古屋市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、１９８７年弁護士登録（愛知県弁護士会）。１９９２年橋本法律事務所を開設し、現在に至る。２０１２年１月よりオンブズ東海委員。

2 「デルタ株からオミクロン株へ」コロナとの闘い

デルタ株が猛威を振るう中、昨年８月２７日に緊急事態宣言が東海３県に再発出。その後感染者数は減少、そのまま終息に向かうかと思われましたが、１月には再びオミクロン株が広がり、第６波の流行が始まりました。ロケの中止やリモートでの番組出演、さらにはイベントの中止や延期など、新型コロナウイルス感染拡大により、番組やイベントが大きく影響を受けた１年でした。ここでは新型コロナに関する取り組みについてご報告します。

舞台は違えど…
はだかのER 救命救急の砦 2021-22 医療が扱う「命」と、私達が扱う「言葉」

報道部 足立 拓朗

１日３０台の救急車を受け入れる、名古屋掖済会病院のＥＲ。県内 No.１の実績を誇る地域医療の“最後の砦”です。忙しさのあまり、コロナ患者が運ばれてくる際に防護体制が整っておらず、あたふたする医師らの姿が何度もありました。その姿は、ＯＡギリギリまで編集し、何とか放送に間に合っている自分たちの姿とどこか重なります。人の命を扱う彼らにとっては、ほんの少しの間違いは致命的となり、医療裁判となります。一方で、私達は“言葉”を扱いますが、言葉もまた、その間違いは致命的になります。今回、侮辱罪が厳罰化されましたが言葉が持つ力はとてつもなく大きい。

取材では、救急医療が破綻寸前の現状を目の当たりにしました。踏ん張り続ける最後の砦に私達スタッフがウイルスを持ち込めば、病院への迷惑はもとより、地域医療に影響を及ぼします。別次元の感染への怖さを感じながら取材した９カ月間でした。そんな中でも「リアル」にこだわり、コロナ専用病棟も病院の協力のおかげで撮影できました。

未曾有の病床逼迫はコロナが原因、と単純に見られがちですが、この国が抱える医療の問題点がさらけ出されただけのようにも見えます。ニュース制作でヒヤリとする場面の裏に隠れた、多くの問題点もたくさんあるはず。改善のためには、ＥＲの医師らがやっていたように、互いに意見を言い、聞くこと。ただそれだけかと思っています。

コロナ禍でのイベント開催

事業部 竹中 麻紀

２０２１年７月から２０２２年６月までの一年間、事業部では３４本の自主催事を開催。前年と比べ状況は好転しました。しかしコロナ収束は程遠く、１１月にはオミクロン株の拡大により外国人の入国停止措置が発出され、海外招聘公演が中止を余儀なくされるなど、引き続き影響を受けた一年でした。

こうした中、夏には名古屋市科学館で「特別展昆虫」が開催され、多くの子供たちで賑わいました。また２月には愛知県芸術劇場で「グラン・ドリーム・バレエ・フェス」を初開催。世界で活躍する日本のトップバレエダンサー４名と共演できる夢の公演とあって、多くの地元バレエダンサーがオーディションに臨みました。オミクロン株が猛威を振い、公演当日まで常に「中止判断」と隣合わせでしたが、厳格なコロナ対策をとり無事終演を迎えました。

入場時の検温・手指消毒はもちろん、出演者・スタッフのＰＣＲ検査、来場者の個人情報取得、物販中止や飲食の規制、会場の換気、規制退場…催事の開催にはコロナ前には無かった対応が山積みです。しかしすべてはお客様に安心して楽しんでいただくため。人生にはエンタテインメントが必要と信じて。「大変な中、開催してくれてありがとう。」お客様からこんなお言葉をいただくと、また頑張ろうと心から思います。

©Kazuma Sugihara

～未来につなぐタスキ２０２１～

愛知駅伝特別編

スポーツ部 吉野 健

「愛知万博」の理念をつなぐ――。万博翌年２００６年から始まった「愛知駅伝」。

県、愛知陸協と共に東海テレビが運営と放送を行い２０１９年まで開催も、ここ２年はコロナ禍で中止になりました。

市町村の代表として、小学生から出場できるのが愛知駅伝の魅力の一つ。

解説を務める名城大学の米田監督は「市町村によっては、愛知駅伝で初めて駅伝をやる子もいます。テレビに映れば翌日、学校でヒーローになると思うんです。駅伝を走りたい子供達が年々増えていて競技力向上に大きく貢献しています」と裾野の広がりにこの大会が貢献していると話します。

成果は、愛知駅伝が始まって１１年目の２０１６年「全国都道府県駅伝」。

中学生から社会人で襷を繋ぐ全国駅伝で、愛知県が大会史上初の男女アベック優勝を達成。しかも男女共そのほとんどが愛知駅伝の経験者でした。

子供達にとってロールモデルの存在も愛知駅伝を目指す理由の一つです。

東京五輪マラソン代表の鈴木亜由子選手、箱根駅伝で「山の神」と称えられた神野大地選手の２人は、中学生から愛知駅伝に出場し世界で活躍しています。

コロナ禍によって大会は中止となりましたが、「未来につなぐタスキ」と題し、愛知駅伝を楽しみにしていた子供達を勇気づけようと鈴木選手と神野選手による子供達への特別授業を企画しました。

いつか笑顔で襷をつなげる日が来る事を信じて。

タイチサン！とコロナのその先と

制作部 横井 良安

２０２０年２月にスタートした日曜お昼の情報バラエティ番組「タイチサン！」。ＭＣの国分太一さんをはじめ今をときめくタレントのみなさんが街に繰り出し、グルメ・モノ・人など“ざわめく”情報をお届けしています。

そんな「タイチサン！」が始まってからの２年半は、コロナに翻弄された日々でした。この一年に限っても、名古屋のスタジオから生放送ができなかったり、ロケの自粛をしたりと大きな影響がありました。

また感染防止のため、出演者のみなさんには週一回のＰＣＲ検査をお願いした他、マスクの着用・手指の消毒・ソーシャルディスタンスの確保・アクリル板の設置・こまめな換気・最少人員での放送や収録などと枚挙に暇のないほどの対策を講じてきました。

しかし一番心を砕いたのは「視聴者はいま何が見たいのか」です。“ゼロコロナ”から“ウィズコロナ”に緩やかにシフトしていく中、情報バラエティ番組として何を届けるべきなのか。スタッフ一同、日々悩みながら番組作りを重ねてきました。

そしてこうした日々の積み重ねは“もとの日常”を取り戻したとき、私たちにとってかけがえのない財産になると確信しています。

3 テレビの使命を考える　放送や配信を通じた地域貢献

東海テレビでは、視聴者の皆さまの多様な要望などを踏まえ、番組を制作・放送しています。新たに始まる番組がある一方で、長年にわたり、皆さまの支持をいただきながら放送を続けている番組もあります。また、動画を中心とした情報を配信する公式サービス「Locipo」は、３年目に入りました。ここでは、放送や配信を通じた地域貢献の活動についてご報告いたします。

SWITCH スイッチ！

コロナ禍に“知多半島を歩く”とは？
マスク着用で一期一会“はじめまして”

生活情報部　時田 一雄

「マスクは不織布で！」「店内ロケは事前許可を！」「トークは距離をとって！」「ひとくち食べたら感想はマスクをつけた後で！」など番組制作者が徹底してきた感染症対策ですが、「スイッチ！」の名物コーナー「はじめまして～知多半島を歩く～」も同じく徹底した一年でした。

中でもマスクの着用はかなりの苦労がありました。

このコーナーは、新しい発見、出会いを求めて東海地方を歩くことが企画の軸なので、目的地まで歩き続けることで、リアルな発見・出会いを足で稼ぎます。

それゆえ、暑い夏は汗だくになったマスクを、暴風雨の時はびしょ濡れのマスクを着け続け…と、高井アナとスタッフは≪マスクとの戦い≫になりますが、その苦労は必ず報われます。それは、狙っていた「新しい出会い」です。距離は保ちつつも、多くの方々から時には差し入れをいただき、笑顔で応援をいただきました。マスク着用の徹底を心掛けたから今まで当たり前だった“一期一会”を最後まで伝え続けられたのだと思います。「テレビは楽をしてはダメ」、「苦労があってこその信頼づくり」そこから生まれるのが地域密着だと実感した１年でした。

ぐっさん家

～みんなとつながる笑顔の輪～
ぐっさん家　２０年目

制作部　猪飼 健夫

２００３年４月から始まった「ぐっさん家」は、２０年目に突入しました。

日頃、愛していただいている視聴者の皆様に感謝の気持ちを直接届けようと企画したのが、「リぐエスト旅」です。皆様からの希望を「リクエスト」ならぬ「リぐエスト」と称し、希望を叶えるため、感染症対策に努めた上で直接、会いに行きました。

『お父さんが作った美味しい野菜を食べて欲しい』、３世代で農家を営む愛知県安城市在住の視聴者の畑にうかがい「白ゴーヤ」や「そうめん南瓜」などの野菜を食べさせていただきました。ぐっさんは、珍しい野菜とその美味しさに驚き、新たな発見がありました。

『コロナで披露する機会が激減した和太鼓のステージを見て欲しい』、愛知県東栄町で活動を続けるプロの和太鼓集団「志多ら」の迫力ある演奏を見て、ぐっさんは、力強いパワーと感動をもらいました。

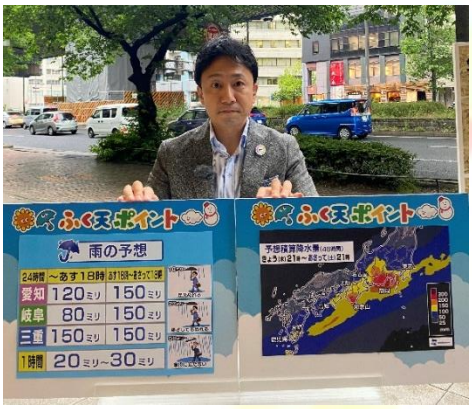
一方的に情報を発信するのではなく、視聴者の皆さんと感情を共有する番組を目指し、ぐっさんが、体験した「驚き・発見・感動」をこれからも届けていきたいと思います。

NEWS ONE

『心温まるニュースを伝えたい』　　アナウンス部　松井 美智子

春にリニューアルした「ＮＥＷＳ　ＯＮＥ」、連日お伝えするのは、ウクライナ侵攻、コロナ、物価高と明るいニュースは少ない。さらに明治用水の漏水問題からは、昭和の大規模構造物の老朽化という問題も露呈した。将来へ希望を持てる話題が少ない中、視聴者の心を温かくするニュースもある。ウクライナ支援をするパン屋さんや、平和を願いコンサートを開くピアニスト、左手の指がない野球少年は、障害を力に変えて二刀流を目指す。困難や逆境の中でも前を向いて歩む人々は尊く、輝いている。どんな時代でも、主役は「今を生きる人々」その姿を丁寧に伝えたい。また番組では経験豊富なコメンテーター陣が、何故この問題が起きたか、どうすれば解決するのかを解説する。番組のロゴはＳＤＧｓをイメージしたデザイン。ミライに向けて、視聴者に少しでも役に立つ情報を届けたい。

『アナウンサー×気象予報士～伝わる天気～』
アナウンス部　福島 智之



梅雨といえば、しとしと降る雨の中で凛と咲いている紫陽花、そんな情緒ある景色を想像するものですが、最近はザーザーどころか、ゴーという物凄い音を立てて降る印象が強くなってきました。東海地方でも大雨の被害が続いて、毎年の様に現場からリポートをしている中で、もっと気象に詳しくならなければ命を守れないと感じたのが、気象の勉強を始めたきっかけです。

「伝えるプロであるアナウンサーが気象を解説したら、きっと耳を傾けてもらえる」、そう信じて気象予報士の資格を取ってまだ半年。気象キャスターとしてはまだ新人ですが、アナウンスの経験を活かして、伝わる天気、行動を起こしてもらえる天気コーナーを目指しています。

何が起こるか分からない世の中で、唯一、未来に起きる事を予測できるのが気象です。一人でも多くの人の命を守る為に、日々学びを続けて行きます。

『“持続可能な番組”目指し…』　　報道部　片本 武志

４月から「ニュースＯＮＥ」が「ＮＥＷＳ　ＯＮＥ」に、メインキャスターも高井一アナウンサーから松井美智子アナウンサーに変わりました。夕方の顔として、初の女性メインキャスターの誕生です。今回の大幅リニューアルにあたり、意識したことは、「持続可能な番組」であることです。

まず、番組ロゴです。一目瞭然「ＳＤＧｓカラー」です。視聴者に、「明るい未来につながるニュース番組」を印象付けたいと思ったからです。そしてスタジオセットも。木材加工の過程で出た廃材を使ったり、普段廃棄しているニュースの原稿用紙まで、壁紙としてレイアウトしました。放送初日には、松井キャスターが番組内で紹介しました。また、“ＳＤＧｓな人々“を取り上げる特集「ミライノニュース」も継続。時には、松井キャスター自ら取材に赴き、「ジェンダー」や「子育て・教育」など、等身大で語ります。

新型コロナウイルス、ウクライナ侵攻、頻発する大災害…。相次いで迫りくる危機に、世の中の価値観が大きく変わろうとしています。日々の生活に関わるニュースはもちろん大事にしながらも、広い視野を持ちながら、持続可能な世の中の実現に、ほんの少しでも寄与できる番組を目指したいと思います。

～私も大切にしたい“氣”～

番組制作を通じて得たこと

スポーツ部　伊貝 純矢

“一番は気持ちですよ。何事も…ダメだと思ったらダメです”“グランドの中で相手に弱気な顔を見せるな”こう発する立浪監督の言葉は私たちの日常生活でも当てはまること。私は立浪監督の取材を通じて、多くのことに気付かされました。

立浪監督は現役時代から“氣”という文字を大切に、そこから繋がる“気持ち”“気配り”“負けん気”などの言葉を支えにプロ野球人生２２年を歩んできました。しかし、それらはプロ野球選手でなくても大切なこと。立浪監督は現役時代もプロ野球界に生きる“選手”である前に人間・立浪和義としての振る舞いを大切にしていたことを取材を通して知りました。だからこそ、ファンだけでなく、裏方スタッフさんなど多くの人々からも愛されるのだと感じました。

今回の番組取材を通して人間・立浪和義さんから多くのことを学ばせていただきました。これからは学んだことを少しずつでも自分の日常に組み入れ、自分自身の糧としていければと改めて考えています。

土ドラ「顔だけ先生」

テレビドラマにできること

東京制作部　後藤 勝利

「心のアンカー（錨）を打つ」。土ドラ初の学園ドラマに向けた取材中に、児童心理学者の方からうかがったとても印象に残った言葉です。変化する社会情勢、周囲の意見、経済的事情など、様々な荒波に翻弄され、自分という船を見失わないように“心のアンカー”を打つ（幸せを感じる場所を忘れない）という意味だそうです。主人公・遠藤は、教師らしい事は一切しない、ややもすると非常識で自己中心的な人間ですが、彼自身は明確なアンカーを持っていて、アンカーが定まらず悩んでいる人には、そっと寄り添えるヒーローです。

ある意味、今日の常識が、明日非常識になっている時代だからこそ、実は、大人もそういうヒーローを欲しているのではないか？と想い、「顔だけ先生」を制作させていただきました。全ての人がディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を実現するために、国家レベルでの投資や支援は不可欠だと思います。ですが、視聴者の方がパラダイムシフトするきっかけを、思いもよらぬ角度から提示出来るのは、テレビドラマならではの役割だとも思っております。微力かもしれませんが無力ではないと信じて、これからも日々精進したいと思います。

知ることは、優しくなること。
「生理を、ひめごとにしない。」
報道部　高山 美月

“今年のキャンペーンのテーマは生理です！”

こう伝えた時、大体の男性スタッフから少しギョッとされたのを今でも覚えています。

取材クルーを決めるときも「カメラマンも女性の方がいいんじゃないの？」、社内で生理研修を開くときも「男性の僕ら参加しても、仕方ないでしょ。」という反応。しかし、これらは決して意地悪で言っているわけではありません。これまで１度も学校で教えられず、社会が生理を“タブー”としてきたから、触れ方が分からないのは当たり前のことだと思います。

でも、大切なパートナーのこと、一緒に働く大切な同僚のこと、その辛さや痛みを知ることができたら、きっと違う見え方があるはずなのです。

生理のＣＭを作るにあたり、“どうして今まで生理を隠さなきゃと思っていたんだっけ”と何度も考えました。いかに私たちが“当たり前”を刷りこまれてきたのかと気付かされました。「生理はぼくには来ない。でも、あなただけのものじゃない。」

生理はもはや女性だけが抱えるものではなくなっています。理解が広がれば、女性だけではなく男性も、みんなが生きやすくなることに気づき始めています。生理を知ることは、社会を優しくすることです。

今回のＣＭは男女がいるチームだからこそ、出来た作品だと思っています。私たちはきっかけがあったから、話すこともできたし、形にすることができました。このＣＭが、誰かのきっかけになればとても嬉しいです。

全社一丸となって番組企画を選定！
第１回東海テレビプレゼン大会
編成部　佐藤 奈奈

２０２２年３月１日、「第１回東海テレビプレゼン大会」を行いました。このイベントは全部署・全従業員から番組企画を募集し、全社に向けてプレゼンを行い、全従業員が面白いと感じた企画に１票を投じ、多数決で番組化する企画を決めるというもので、東海テレビとしては初の試みです。

制作部の新入社員から営業部のベテラン社員、制作会社スタッフも参加し、合計１７部署から４６の企画が集まりました。

プレゼン時間は一人５分。イラストで表現したり、コントやダンスで展開したり、企画への熱い思いを伝える工夫のされたプレゼンが次々発表されました。

最終的に１位を獲得したのは入社８年目の報道記者の企画「本気のコドモ情報番組　放課後ランキング」。全社一丸となって選定した番組企画です（２０２２年８月２１日(日)午後１時２５分から放送予定）。

配信を含め様々な番組がある中たくさんの方々に「東海テレビの番組は面白い！見たい！」と思っていただける番組作りを今後も続けていきたいと思います。

地域に根差した情報発信を目指して
在名民放局共通配信サービス Locipo

コンテンツ事業部　安田 俊之

名古屋に本社を置く民間放送局４社（東海テレビ、中京テレビ、ＣＢＣテレビ、テレビ愛知）が共同で動画を中心としたさまざまな情報を配信する公式サービス「Locipo」が２０２０年３月にスタートしておよそ２年が経ちました。

Locipo は、きめ細かく地域の情報を発信することにこだわりながら、４社が放送した番組の見逃し配信の他、放送に出していない情報、ＷＥＢで展開しているコンテンツ等を１つのサービスに集約し、カテゴリーに分けて配信しています。

「テレビ」では人気番組を、「ニュース」では地域に根差したＨＯＴな情報を４局で集約し配信しています。「ライブ」ではコロナ感染に関する愛知県大村知事の会見などを配信し地域の方にいち早く必要な情報を届けるとともに、４局共同制作番組「デラ★ヒットテン」を配信し地元アイドルなどが出演する音楽番組を提供しました。

新たな試みとして「名古屋ウィメンズマラソン２０２２」の生中継を Locipo でリアルタイム配信したほか、土ドラのリアルタイム配信を４月からＴＶｅｒで行なっています。

また、コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援を目的とした、文化庁「ＡＲＴＳ　ｆｏｒ　ｔｈｅ　ｆｕｔｕｒｅ！」の一環として、エンターテイメントＳＨＯＷ「ボイシャチＬＩＶＥ が～まるちょばに弟子入り!?」の公演を開催し、生配信しました。

～現場と模索した２日間～
イッチー祭りで初の本格的な配信を

編成部　風隼 隆宏

東海テレビが、視聴者の皆様に「感謝」を伝えるイベントとして、長年続けている秋の「感謝祭」。ここ２年はコロナにより、リアル開催は見送りとなりました。

ただ去年は、１０月２３日（土）、２４日（日）の２日間、地上波の特番に加え、初めて大規模な配信にチャレンジ。現場の各部署のメンバーが団結し、それぞれアイディアを出し合いました。

情報番組「スイッチ！」の地上波特番の放送前に配信された、「裏スイッチ」では、「生演奏」や「サプライズ出演」などで、スタジオ内に活気があふれました。

また、土ドラ「顔だけ先生」の生徒役の出演者を集めた生配信では、土曜日の遅い時間ながらもＹｏｕｔｕｂｅのチャット画面に、視聴者の方々が、お目当ての出演者に多くのメッセージを送ってくださり、改めて視聴者の方々とのつながりを実感しました。

さらに「ドラＨＯＴ＋」の配信では、１０万以上のアクセスを記録、ドラゴンズの根強い人気を肌で感じ、その可能性をさらに広げていきたいという思いを強く持ちました。

昨今のテレビ業界は逆風が吹き荒れていますが、「テレビが持つ底力と元気さ」を胸に、今年こそはリアル開催を目指して、訪れた視聴者の皆様に喜んで頂けるようさらに良いイベントにしていきたいと思っています。

4 岩手県をはじめとした被災地支援

東日本大震災から１１年。岩手県の復興をテーマにした特別番組「６００キロを結ぶ未来へのメッセージ～岩手と愛知・名古屋 復興１０年の絆～」を制作する機会を得て、２月に放送。前半ではこの番組に関わった従業員からの声を集めました。そのほか、岩手県をはじめとした被災地支援の東海テレビの取り組みも後半でご紹介します。

今回の番組では、６００キロ離れた岩手と東海地方、名古屋との様々な絆や知られざる復興秘話を紹介することになりました。名古屋市が震災直後から陸前高田市に行ったのが「丸ごと支援」。市役所の行政機能が壊滅状態の中、名古屋市役所の職員を派遣し全ての業務をカバーしたというものです。これまで延べ約２６０人が派遣され、１０年以上たった今でも継続されているというのはあまり知られていません。

カキ養殖が盛んな山田町も津波で大きな被害を受け、三重県の多くのボランティアが駆けつけ復興作業を手伝いました。その際、名産の牡蠣を食し「三重の牡蠣も旨いが山田の牡蠣も最高！」と笑顔で言ってくれたことがとても励みになったといいます。

他にも若者たちの熱い想いもありました。津波の到達ラインに桜の木を植樹し、桜並木を作るというプロジェクトに感銘し、愛知県から陸前高田市に移住してこの活動に従事している青年や、中学生の時被災し、避難所で医療スタッフに心身ともに助けられた経験から看護師を志し、名古屋市の看護師育成支援に応募。単身名古屋に赴いて資格を取り地元岩手で恩返しとして働く女性など、震災被害を風化させないため未来へ伝えようをしている人々の姿がとても印象的でした。

制作局　川瀬 隆司

私にとっては８年ぶりの岩手。前回一人旅で訪れた際は多くの方々が仮設住宅で暮らし、震災前の町の姿も、復興したと言える町の未来も、想像し難い状況でした。

今回の取材で、震災から今日まで多くの東海地方の皆さんが岩手の方々を支えるために現地で行動されていたこと、人と人とのあたたかな繋がりが今も継続していることを知りました。

山田町の牡蠣小屋で「私、三重県出身です」と伝えた時の地元の方の笑顔は、いかに三重からのボランティアと山田町の皆さんが良い信頼関係を築いてこられたかを物語っているようでした。

また、使命感を持って震災を語り継ぐ２０代の皆さんからも多くのことを学びました。災害により悲しい思いをする人を一人でも減らしたい…受け取ったその思いを、責任を持って東海地方の皆さんに伝えていけるよう、私は名古屋で自分にできることを模索し続けたいと思います。そして６００キロの距離を越え、また何度でも岩手に足を運びたいです。

アナウンス部　浦口 史帆

「東海地方の人たちに、復興支援への感謝を伝える特別番組を放送したい」岩手県が初の試みとして、県外でのローカル特番を制作することになりました。当社は「ぴーかん問題」以降、ニュースや番組を通じて岩手県の復興に繋がる活動を続けてきたこともあり、入札への参加を決めました。

東海地方と岩手県の間では、官民による支援が今も続いています。このため、様々な絆が生まれていて、その「絆」に焦点を当てる番組を企画しました。リモートによるプレゼンで、私は震災直後にニュースデスク応援として岩手入りした当時を思い出しながら、番組内容と当社の想いを熱く語りました。結果は当社に決定。今年２月の放送までの３カ月間、岩手県の担当者と毎日電話とメールで打合せや議論を重ねました。

撮影で訪れた岩手では、多くの人から「感謝の気持ちを伝えられた。ありがとう」との言葉をもらいました。担当者からも「良い番組だった」と評価を頂き、新たな「絆」ができました。まだ当社がやるべきことはたくさんある、と改めて感じました。

経営戦略室　村野 晋

～２年ぶりの岩手訪問～
これからの岩手のことを…

秘書室　野瀬 義仁

新型コロナの影響で延期と中止をくり返し、ようやく小島社長が岩手を訪れることができたのは、昨冬１２月９日。２年ぶりでした。訪問した岩手県庁、ＪＡ岩手県中央会で、それぞれ口をそろえたように話してくれたのは震災から１０年以上たった被災地・岩手の現状です。堤防の整備や市街地の高台移転等の復興が進んできても、住民が思うように帰らず、過疎化が進んでしまっているとのこと。特に漁業や農業では次世代の担い手となる若者が戻ってこず、後継者不足が深刻になってきているとのことです。

JA 岩手県中央会にて

その一方で新たな動きも出てきたそうです。岩手県庁では県外の若い人に Ｕ ターンや Ｉターンを促すため、岩手の住みやすさや働きやすさを伝える雑誌を制作し首都圏中心に発売したところ、これが想像していた以上に好評で、手応えを感じているといいます。またＪＡでも様々な支援策を行い、県外の人がＩターンで就農。次々と農地を拡げ、いまでは立派な農場を経営していると話してくれました。こうした成功例をひとつひとつ積み重ねていくこと、そして一人でも多くの人に知ってもらうことが新たな復興につながるといいます。

「これからも岩手のことを発信していってください。」

あれから１１年が過ぎ、復興が新たな局面にはいったいま、あらためて伝えられたメッセージです。

岩手県庁にて

この１年でお伝えした主な被災地支援番組・企画

One ニュース

７月１３日	いわて食の商談会　名古屋で開催
１１月　１日	将棋の竜王戦第３局で藤井三冠が福島県いわき市の観光施設を訪問
１１月　３日	岩手日本酒うまいものフェア岡崎市で開催
１１月１０日	第１１回大東北展（ジェイアール名古屋タカシマヤ）
１２月１３日	岩手県陸前高田市と名古屋市の小学校が防災オンライン授業
２月２３日	岩手県陸前高田市と名古屋市の中学生との９回目の交流会を開催
３月１０日	宮城県女川町で被災し高山市に移住した男性を取材
３月１１日	元日進市役所の職員で福島県川俣町の地域再生に尽力する男性を取材
３月２１日	名古屋城春祭り「岩手陸前高田市物産展」ブースを取材

SWITCH スイッチ!

１１月１０日	第１１回大東北展（ジェイアール名古屋タカシマヤ）
１月１９日	宮城県の観光と物産展（名鉄百貨店）

岩手米の社内販売と社員食堂での消費

東海テレビでは岩手県の震災復興支援の一環として、１０月から１１月に岩手産米「ひとめぼれ」、「銀河のしずく」新米の社内販売を実施し、５ｋｇ入り３０００円を２３１袋を販売しました（ひとめぼれ７１袋、銀河のしずく１６０袋）。

また、２０２１年４月から２０２２年３月に、社内食堂で岩手産米「ひとめぼれ」を計３０００ｋｇ消費しました。

5 「持続可能な開発目標」SDGsに関する取り組み

ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）は環境・貧困・差別など１７の地球規模の課題を、２０３０年までに解決するために行動するものです。東海テレビは昨年ＳＤＧメディア・コンパクトに加盟しました。この地域のメディアとして関連の情報を発信し、地球にやさしい、平等な社会の実現を後押ししていきます。

ＳＤＧｓの根っこ
「あなたの得意なことは何ですか？」

宣伝部　伊藤 順子

流行りのように使われる「ＳＤＧｓ」という言葉。あと２年もすれば、わざわざ使わなくても、みんなの生活スタイルが変わっているのでは？と思うほど、この１年で急速に認知が進みました。そして、わたしたち東海テレビもそれぞれのセクションで出来ることを一人一人が考え、普段の業務のやり方を変えていこうというスタートラインに立った１年でした。誰かがやるのではなく、「自分には何ができるのか」を考え、暮らし方、仕事の仕方、人々との関わり方を少しずつ変えながら、社内だけでなく、地域の人たちと、異業種の企業と、自治体と、連携をしながら進められるよう、いくつかの種を蒔くことを心がけました。「イッチー文庫」も「サークルフラワー」も地域のこどもたちとのコミュニケーションツールです。取材する側、される側の関係値ではなく、わたしたちテレビ局が地域のみなさんのもとにお邪魔するのに、手ぶらでは行きにくかったので、「仲良くしてもらえませんか？」のお近づきの印に、この２つの取り組みを考えました。

そして、もうひとつ。自分たちが元気でないと、誰かを元気にすることは出来ない気がしています。自分たちの得意なこと、自分たちのスキルを存分に発揮できる会社にしていく仕掛けを、これから少しずつ取り組んでいきたいと思っています。

ライバル局との共同作業
ＳＤＧｓ実践中　名古屋５局合同プロジェクト

営業戦略部　金子 卓史

このプロジェクトは、昨年１２月から、在名５局の営業部門で連絡を取り合って始まりました。最初は何をするのか手探りの状態で、毎週１回程度の打合せを重ね、各局編成部やＣＳＲ担当の意見も聞きながら進めていきました。ようやく形になったと感じたのは、４月にロゴが完成した時です。キャッチフレーズは、「ＳＤＧｓ実践中」。失敗しても目標に達成しなくても、５局一緒になって、とにかく“実践”してみる、という意味が込められています。

５月には対外リリースも出し、合同ＨＰも立ち上げました。中京テレビのブリヂストンレディスオープンでは、５局合同ブースも展示し、各局のＳＤＧｓの取り組みもパネルで紹介しました。今後は東海テレビのイベントでも合同ブースが展示されることになります。

８月以降はリレー方式で各局の自社制作番組で共通コーナーを設けてＳＤＧｓを取り上げていきます。そして、５局で共通のＳＤＧｓのアクションも行っていく予定です。

電通の調査によると、ＳＤＧｓの認知度は日本で８０％を超えているそうです*。しかし、我々在名５局の合同プロジェクトはまだスタートラインに立ったばかりです。普段はライバル同士ですが、ＳＤＧｓは手を取り合って、挑戦していきます。

＊電通／第５回「SDGs に関する生活者調査」(2022 年 4 月発表)による

地域のみなさまのために

アナウンス部　庄野 俊哉

東海テレビと地域連携協定を結んでいる愛知教育大学の読み聞かせを推進するサークル「よみっこ」。私が、絵本などの読み方の指導を始めて４年目になりました。コロナ禍で学生の指導はリモート中心ですが、活発に活動する上級生を見て新入部員の数も増え、大学近くの図書館からの要望で、５月から２か月に１回、地域の子どもたちに向けて「おはなし会」を定期的に実施することも決まり、これからの活動がますます楽しみです。

また、フジテレビのＣＳＲ活動に協力している食育出前授業「ハロー！どっこくん。」は１１月に名古屋市内の幼稚園と保育園で、フジテレビのアナウンサーとともにおこないました。

一方で２０１５年１０月に始まり、ほぼ毎日続けている中日新聞「くらしの作文・新聞音読」は、６月現在２３００回余りになりました。これからも将来を担う子供たちや地域のみなさまのために活動を進めてまいります。

「ＳＤＧｓのご縁」

アナウンス部　勅使河原 由佳子

ＳＤＧメディア・コンパクトに加盟している東海テレビがＳＤＧｓ啓蒙活動に力を入れている中、私もこの１年様々なプロジェクトに携わりました。

１０月に開催されたＳＤＧｓのイベントで、私が地元の企業・ホンダロジコムさんの取り組みに感銘を受けたことがきっかけで、ホンダロジコム×中部大学×東海テレビの読み聞かせプロジェクトを展開。この縁でホンダロジコムさんが「スイッチ！」レギュラー提供をしていただくことになりました。

愛知教育大学のＳＤＧｓ関連団体「ＳＡＧＡ」さんとは、東海テレビの社内見学プロジェクトを一緒に構築。また「イッチー文庫」の活動では、地元行政の協力のもと、地域の子育て支援センターで親子とふれあうなど、普段の業務では出会えなかった方々と縁ができ、笑顔あふれる豊かな時間が紡げたこと。

これほど嬉しいことはありません。これからも地元密着の“真心”の活動を展開していきます。

「花を通して広がる交流の輪」

アナウンス部　　上山 真未

スタジオセットに飾られ、役目を終えた花。その花を廃棄せず、暮らしに循環させる「サークルフラワー」の取り組みを社内で進めています。ドライフラワーにしたり、スタジオ見学の子供たちと押し花のしおりにするプランがあったり…花を通して、交流の輪を広げています。

愛知県は、５０年以上にわたり花きの産出額全国１位の花の産地。花は、愛知の自慢のひとつです。私も花農家を取材し、東三河のバラや紫陽花・菊の美しさに感動しました。

しかし、地元ではこれが当たり前なのか、そのすごさに気付いていない人が多いように感じます。「サークルフラワー」をきっかけに、東海地方の宝モノをもっと知ってもらいたいです。

サークルフラワーで生まれたドライフラワーで作ったアレンジメントを、読み聞かせ会を開いた大府市の子供ステーションにお渡ししました。受け取ったお子さんの笑顔を見て、胸がじーんと熱くなりました。この取り組みで、花に癒やされる人がひとりでも増えることを願っています。

新入社員も参加

ごみゼロ　ＳＤＧｓ清掃活動

コンプライアンス推進部　谷口 雄二

５月３０日は５３０（ごみゼロ）の日ということで、フジテレビ系列で海洋ゴミを中心とした「ごみゼロＳＤＧｓ清掃活動」に取り組みました。この日は、東海テレビ及びグループ会社の新入社員や従業員、美浜町役場の職員など３４人が女子ゴルフトーナメント「住友生命 Vitality レディス 東海クラシック」を開催している愛知県知多郡美浜町の小野浦海水浴場等でプラスチックや陶器の破片、流木など小型トラック一台分を回収しました。この取り組みは、ＳＤＧｓの目標１１「住み続けられるまちづくりを」や目標１４「海の豊かさを守ろう」に該当します。今後も機会があれば取り組んでいきたいと思います。

全社で取り組んだ

ペットボトルキャップ回収

コンプライアス推進部　谷口 雄二

東海テレビで２０２１年１月から本社１階ロビーに、ペットボトルキャップの回収容器の設置を始めて１年半、これまでに約３７０ｋｇ、１６万個相当を回収し、ポリオワクチンで１８５人分寄付をすることが出来ました。（２０２２年７月１９日現在）。１００人分を超えた１１月には、活動を主催するＮＰＯ法人から感謝状をいただきましたが、今年に入り、さらに回収のペースが上がっています。これからも、引き続き取り組んでまいります。

本社１Ｆに設置したキャップ回収容器と感謝状

地域社会の福祉の向上と充実を目指して

東海テレビ福祉文化事業団

植木 圭一

「社会福祉法人 東海テレビ福祉文化事業団」は１９７９年に設立され、東海地方の障がい者やお年寄り、子どもたちの福祉の向上に貢献してきました。年間を通じて「愛の鈴 しあわせキャンペーン」として募金活動を実施する他、東海３県の障がい者の福祉に携わっている社会福祉団体に対する軽自動車「愛の鈴号」の寄贈や、身体機能のハンディを克服し社会的に自立・活躍している地域在住の方々に「東海テレビひまわり賞」を設け顕彰しています。ひまわり賞は今年で４０年目を迎えますが、これまでに受賞者は２６５名を数えます。また昨年は、東海３県と名古屋市に、新型コロナウイルス感染症対策支援金を寄託しました。災害援護事業にも力を入れており、２０１１年の東日本大震災発災直後から義援金を募り、これまで合計約１億２千９百万円ものご支援をいただきました。これからもニュースや番組、告知ＣＭ等で積極的に協力を呼びかけ、さらなる地域社会の福祉の向上と充実を目指してまいります。

6 視聴者との向き合いを大切に

東海テレビでは、様々な番組を制作・放送しています。こうした中、視聴者の皆さまはじめ社外から寄せられるご意見は、より良い番組を作るために大変参考になります。今後ともより良質な番組をお届けできるよう努めて参ります。

視聴者対応窓口

ニュース、情報、バラエティー、ドラマ、スポーツなど様々な番組に対する視聴者のご意見は「視聴者対応窓口」に電話、メール、文書などでいただいています。２０２１年度に寄せられたメッセージは約２万２００件で、番組への意見、出演者への応援、番組の放送要望などが届きました。番組内容への批判のほか、情報番組や報道番組で展開される議論や発言に対して意見を伝えたい視聴者の方々もありました。

また、新型コロナウイルスやワクチン接種関連の番組や情報に対する意見、関連する情報も引き続きお寄せいただきました。

視聴者の皆様から寄せられたメッセージは、番組制作者、編成担当者などにフィードバックし、今後の番組制作、番組編成の参考にさせていただいています。

「視聴者対応窓口」では、視聴者の皆様のご意見、ご批判をしっかりおうかがいし、社内に伝えることで、より良い番組作りに役立ててまいります。

自己検証番組「メッセージ１」

視聴者の皆様からいただいたご意見・ご要望・問い合わせなどは、毎月第４日曜日午前５時１５分から放送している「メッセージ１」で一部を紹介しています。この番組は、ほかにも番組審議会の概要、ＣＳＲ活動、ＢＰＯ事例など様々な内容を報告し、東海テレビと視聴者の皆様との双方向のコミュニケーションを図る役割を担っています。

社外モニター

東海テレビの社外モニターは、毎年度上期と下期、それぞれ１０名の視聴者の方々にお願いしています。１か月４～５本の自社制作番組をご覧いただき、率直な意見をいただいています。２０２１年度は５０番組について様々なご意見をいただきました。年齢、性別、職業、お住まいの地域など様々なプロフィールの方から多様なご意見をいただき、番組作りの課題や番組編成のヒントなどを頂戴する貴重な機会となっています。

≪社外モニターを経験しての感想≫

- 見た番組の感想を書くことを通して、自分自身の感じ方や好み、こだわりなどを再確認したり、発見したりすることができたことは、意外な喜びでした。
- 番組制作の人たちに、直接自分の意見を伝えることができるのは貴重なので、社外モニターは、よい機会をいただけたと思っています。

≪テレビの将来に望むこと≫

- 世の流れや規制などがあり大変だろうと思いますが、これからは「あれもこれも」ではなく、「これ」を伝えたいと、一点に絞った番組が必要ではないかと思います。
- 子供にも安心して見せられる、そして、家族全員で楽しめるものはやはりテレビだと思います。これからも価値の高い番組作りを期待しています。

東海テレビ放送番組審議会

東海テレビ放送番組審議会は、番組をはじめ放送全般について客観的なご意見をいただく、法律に基づいた第三者機関です。東海テレビでは８月を除く毎月１回開かれ、番組など放送に関するご意見をいただいています。現在、審議委員は１０名で、経済、学術、法曹、文化など様々な分野の方々に委嘱しています。委員の方々には、多角的な視点で当社の放送を見つめていただき、多様なご意見をいただいています。

今年も新型コロナウイルス感染防止のため、２月、３月は書面開催で実施しました。対面開催の場合も感染防止のため出席者の距離を確保し、換気の時間を設けるなど、感染対策を行って開催しました。審議会では委員から審議番組に対するご意見をいただき、当社の担当者がご質問などにお答えしました。

番組審議会では、今後も幅広い番組をタイムリーに取り上げて委員の方々から意見をうかがい、問題提起やアドバイスを真摯に受け止めて番組作りに生かすことで、より一層信頼されるテレビ局となるよう努めてまいります。

＜東海テレビ放送番組審議会審議委員のみなさん＞

２０２２年７月１日現在（５０音順）

岡　田　さや加	委　　員	柳ヶ瀬を楽しいまちにする㈱代表取締役社長
桂　　文　我	委　　員	噺家
後　藤　ひとみ	副委員長	愛知教育大学名誉教授
柴　田　　浩	委　　員	㈱名鉄百貨店顧問
鈴　木　孝　昌	委　　員	㈱中日新聞社取締役
武　田　健太郎	委　　員	東海旅客鉄道㈱専務執行役員
竹　松　千　華	委　　員	㈲ＩＤＦ代表取締役
福　谷　朋　子	委　　員	弁護士
水　谷　　仁	委　　員	中部電力㈱代表取締役副社長執行役員
山　岡　耕　春	委員長	名古屋大学教授

第三者意見Ⅱ

上智大学文学部新聞学科教授　音 好宏

このところ、メディア現場の倫理が問われる出来事が多発している。

映画界では、現場で恒常的なハラスメントが横行していたことが発覚し、是枝裕和監督らによって、ハラスメント防止に向けた提言書が発表された。また、総務省「放送コンテンツの適正な製作取引の推進に関する検証・検討会議」において、「フリーランスとして安心して働ける環境を整備するためのガイドライン」に関して意見交換がなされるなど、映像製作現場の環境整備・改善に注目が集まっている。

もちろんその背景には、「ジェンダー平等」の社会的な潮流や、「同一労働・同一賃金」に向けた環境整備といった社会的な要請などがある。加えて、２０２０年来のコロナ禍によって、在宅勤務やオンラインを活用した労働環境が整備されたことで、職場のありよう、働き方のありようを、改めて見直す空気がわき上がっているといえる。

東海テレビは、２０１１年の不適切テロップ問題以来、継続的にコンプライアンス強化を進め、コロナ禍でその開催が制限されつつも、放送倫理研修や全社集会を継続的に開催すると共に、外部有識者による第三者機関「オンブズ東海」委員会を定期的に開催。現場の生の声を大切にした組織改善に取り組んできた。

このことは、メディア現場での倫理を見直し、再強化しようとする昨今の風潮を先取りしてきたとも言えるだろう。その意味において、２０１１年の不適切テロップ問題の教訓は、東海テレビという組織を倫理面で鍛え直したことは確かだし、また、時代の潮流を見据えた対応をしてきたと言えるであろう。

そのような「倫理を大切にする」組織の方向性を先頭を切って示してきたのは、故・内田優会長であった。

２０２１年１２月、内田優会長が急逝された。内田会長は、東海テレビのコンプライアンス強化を、強力に推進した方である。組織上の整備を進める一方で、スタッフの精神的な対応を大事にされた。加えて、社長在任中は、毎年、欠かすことなく岩手を訪問されていた。内田会長が、現職のまま亡くなられたことは、残念でならない。

ＳＮＳが隆盛な昨今、テレビ放送を「オワコン」と嘯く声も少なくない。組織的に倫理に金をかけるのは、コンテンツパワーへの投資を渋ることにつながるとの声すらあるという。しかし、その「倫理を大切にする」ことこそが、東海テレビの「信頼」を育み、その信頼が、東海テレビを身近なテレビ局として、東海地方の視聴者の支持を得ることにつながることは論を待たない。

内田会長が示されていた「倫理を大切にする」組織の姿に、改めて敬意を示すと共に、東海テレビの皆さんには、是非、その意志を継いでいただきたい。

音 好宏（おと よしひろ）氏

上智大学文学部新聞学科教授
北海道札幌市生まれ。１９９０年上智大学大学院博士後期課程満期退学。日本民間放送連盟研究所勤務後、１９９４年より上智大学専任講師、その後、助教授、コロンビア大学客員研究員を経て、２００７年より現職。専門はメディア論、情報社会論。２０１３年より上智大学メディア・ジャーナリズム研究所所長を務める。

この１年の取り組み

２０２１年

６月２８日（月）　新型コロナワクチン職域接種（１回目）
（～7月２日（金）まで）
７月　放送倫理を考える月間
放送倫理を考える日全社アンケート
７月２６日（月）　新型コロナワクチン職域接種（２回目）
（～３０日（金）まで）
８月　４日（水）　放送倫理を考える日
「東海テレビこの１年の取り組み
２０２１」発行・ＨＰに公表
８月２７日（金）　第３２回コンプライアンス責任者会議
９月　８日（水）　第２０回コンプライアンス委員会
９月１６日（木）　２０２１年日本民間放送連盟賞
【ＣＭ部門】テレビＣＭ　最優秀
公共キャンペーン・スポット
「ジェンダー不平等国で生きていく。」
【番組部門】テレビドラマ番組　優秀
オトナの土ドラ「その女、ジルバ」
【番組部門】テレビ教養番組　優秀
「チョコレートな人々」
９月２７日（月）　オンブズ東海第３９回委員会（書面開催）
９月２７日（月）　「スイッチ！」スタジオリニューアル
１１月　９日（火）　２０２１年日本民間放送連盟賞
テレビグランプリ「チョコレートな人々」
１１月２６日（金）　第３３回コンプライアンス責任者会議
１２月　６日（月）　２０２１年度第１回放送人研修会
「放送における差別表現と番組制作」
１２月　９日（木）　小島浩資社長　岩手県等訪問
１２月１１日（土）　紀伊半島沖を震源とするＭ８．７の巨大
地震を想定した「名古屋モデル」訓練
１２月１３日（月）　オンブズ東海第４０回委員会
１２月２０日（月）　内田　優会長　逝去
１２月３１日（金）　新型コロナウイルスオミクロン株に社員
が感染・公表

２０２２年

２月２５日（金）　第３４回コンプライアンス責任者会議
３月１４日（月）　新型コロナワクチン職域接種（３回目）
（～１８日（金）まで）
３月２２日（火）　第２１回コンプライアンス委員会
３月２５日（金）　２０２１年度第２回放送人研修会
「テレビで働く人が知っておきたいネット
炎上について～知の鎧を身に着けよう～」
３月３０日（水）　オンブズ東海第４１回委員会（書面開催）
４月　１日（金）　東海テレビプロダクション
新入社員コンプライアンス研修
４月　４日（月）　新入社員コンプライアンス研修
４月　４日（月）　「ニュースＯｎｅ」から
「ＮＥＷＳ　ＯＮＥ」へ番組リニューアル
４月１９日（火）　内田　優会長お別れの会
（於／名古屋観光ホテル）
５月１０日（火）　第２２回コンプライアンス委員会
５月２７日（金）　第３５回コンプライアンス責任者会議
６月　１日（水）　第５９回ギャラクシー賞
【ＣＭ部門】選奨
たんぽぽ温泉デイサービス一宮
デイサービス「やめられない」
６月１３日（月）　オンブズ東海第４２回委員会

おわりに

今年も本報告書をご覧いただきありがとうございました。
今回の報告書の表紙には、街のあちこちに花の種をまくイッチーを描きました。花の色は全部で１７色、ＳＤＧｓの１７の目標をモチーフにしています。
東海テレビのさまざまな取り組みを通じ、未来につながる色とりどりの“花”を咲かせていく…そんな願いを託しました。
私たち東海テレビはこれからも放送や配信、そしてイベントなどを通じ、地域の豊かな文化づくりにより貢献できるよう努めてまいります。
引き続き、よろしくお願いいたします。

東海テレビこの１年の取り組み２０２２

＜制作・編集＞
東海テレビ放送コンプライアンス推進局
コンプライアンス推進部

〒461–8501
愛知県名古屋市東区東桜一丁目 14 番 27 号
Tel. 052–951–2511（代表）
https://www.tokai-tv.com

＜表紙・裏表紙デザイン＞
制作局美術部　山崎 孝治

発行年月　２０２２ 年 ８ 月

※　文中の所属・肩書については原稿作成時点のものとなっています。

東海テレビ放送株式会社